

## 総合計画審議会委員ヒアリング結果

このヒアリング結果は、2019 年 7 月 12 日現在でまとめたものです。  
未提出の方におかれましては、ご提出をお願いいたしますとともに、  
提出された方におかれましても、引き続きご意見を賜りますようお願い  
申し上げます。

## 西条市総合計画審議会委員ヒアリング結果①

### 【質問】

「西条市の人口をめぐる動向と未来予想」では大変厳しい状況をお伝えしましたが、西条市の未来に向けて、あなたが懸念する課題は何でしょうか。（複数回答可）

### 【回答】

#### ■ 人口減少に起因する課題

- 少子高齢化、人口減少社会の進展に伴う地域社会への具体的影響として、資料「西条市の人口をめぐる動向と未来予想」図表 3-12 小学校別児童数は象徴的な図表である。社会的なインフラの効率化と市民サービスの確保という相反する事項の整理が必要であり、難しい問題であると思われる。まずは、人口問題を切り口に、市の置かれている立ち位置を一人でも多くの市民に共有してもらうことが大切であり、その意識を踏まえたうえで、市民サービスや公共投資等の選択と集中が必要と考える。
- 人口減少及び少子高齢化により、働き手不足が予想される。産業経済を支える若手を増やすため、魅力ある西条市づくりが急務となっている。若者が西条市にとどまる、また他地域から移住しやすい街づくりをすることが大切である。
- 生産年齢人口が減少し、従属人口が増加していくという予想ですが、今後西条市を消滅させず持続可能なまちにしていくための方策形成が課題。
- 児童数の減少と老年人口の増加。
- 子どもの数が減り、学校の統廃合が進むと、多くの市民にとって、思い出がある母校が消えてしまう。
- 人口減少により街の活気がなくなるのはもちろん、日々の生活に不便さを感じる環境になってしまう。

- 人口減少は税収の減少をもたらし、巨額の財政赤字の原因になる。今後は、延々と続く労働人口の減少及び働ける人が2人に1人の時代になりつつある。
- 少子高齢化、人口減少に伴う労働人口の減少による第一次産業の衰退。
- 若い世代が、西条市から流失していくこと、若者が地元に残らない。
- 大学進学で多くの若者が転出して帰ってこないこと。
- 高校を卒業した子供たちが今以上に市外に転出したまま帰ってこないこと。
- 現行の行政サービスと人口減少による税収のミスマッチ
- いくつかの団体に所属しているが、「数は力なり」という言葉を強く実感している。どの団体も会員数の減少が課題となっている。「人が増えれば、更に増える。人が減れば、更に減る。」これは、市内人口にも当てはまることであり、勝ち組と負け組の格差が大きく開くこのような二極化が、今後は更に進展すると思う。
- 人口減少、流出に伴う変化への対応(生活環境、教育環境、家庭環境、自然環境(景観)、労働・雇用環境など)
- 人口の大幅な減少に加え、企業の合理化等による人員削減による更なる人口の減少、また景気の縮小に伴う税収財源の大幅な減少が容易に予想され、従来のように市民が安心・安全で快適な生活・福祉が保証されないのではないかと不安。これまでのような行政への過度な期待は望めないのではないかと。
- 地元地区でも人口減少問題が気になっており、将来、地区の世話をしてくれる人が現れるか心配。

## ■ 高齢化の推進

- 団体の長など高齢化が著しく固定化しており、次世代の後継者が育成されておらず、世代交代がうまくできていないこと。

- 高齢化による廃業の増加→企業減少・従業員高齢化による産業競争力の低下→働き口の減少による負のスパイラル
- 今以上に高齢者を労働者として活用できるためには、どうすればよいか。
- 高齢化による介護士不足による労働者の介護離職。

## ■ 学校教育

- 小学校、中学校の児童数の減少が止まらない状況での市内 5 高校の在り方

## ■ 産業

- 「生産年齢人口」が減少することで、西条市の産業全体が衰退すること。
- 職種によっての人手不足の格差
- 産業（働ける場所・健全な生活の基盤となる事業所）が、西条市に多く存在しているか。
- 西条市にＵターンしたくても、魅力ある就職先がないこと。
- 外国人労働者増加への対応
- 有効な産業が少ないこと
- 農業の規模が小さいこと

## ■ その他

- 人口動態の動向とその未来予測を多くの市民が知らないこと。
- 新築が増えても、一方では空き家が増え続けていること。

- 人口が減っているのに宅地開発が進んでいる(空き家の増加)
- 医療従事者が増える予想のもと、医師の相当数確保とその家族の居住を呼び込めるかということ。
- 放置人工林による山林の保水力低下、土砂災害を懸念している。山林の保水力の低下は現在でも著しく、将来的に加茂川、中山川の水位を維持し、地下水を保つことが難しくなる心配がある。また、山間部の土砂災害により、下流への流木による災害、加茂川、中山川の天井川化による洪水の心配もある。さらに、石鎚山には多くの登山者が訪れているが、山間部の土砂災害により登山者、観光客が孤立する事態も想定される。
- 消防団の団員不足
- 空き家、休耕地(田畑、果樹園)の増加による環境・治安の悪化
- 高齢者が安心して住める西条市となっているか(医療・介護・交通の便のよさ)
- 子育てがしやすい西条市かどうか(自然環境・治安・教育・医療・幼児教育・地域や家庭教育等)
- 西条市が健全な財政体制であるかどうか
- 西条市が魅力ある、住みよい街となっているか
- 産業別就業者の比率の変化に対応できる人材確保のための教育
- 大型店舗への一極集中、田舎地区での商店の撤退に伴う一部地域での高齢者の買い物難民発生が既に起こっている。
- 人口減少も仕方ないし、結婚しない若い人が多いのも問題。
- 若い人達の考え方が、自分さえ良かったらいい個人主義が多い様に思う、教育に問題があるのでは？

- 少子高齢化による深刻な人手不足等で外国人労働者が西条市にも来ているが、自治会との接点をどのような形でつくるか。特に災害等を想定した話し合いを行政・自治会・会社で確実なものにする。
- 就業者数の減少に伴い、企業の減少、税収の圧縮が心配である。
- 社会保障費等の福祉財源の確保と制度(基準)の見直し
- 地域の担い手不足による、地域での見守り、つながりの希薄化、安心して暮らせる環境づくり、QOL水準の低下

## 西条市総合計画審議会委員ヒアリング結果②

### 【質問】

西条市の明るい未来を切り開いていくため、2024年までの5年間、あなたはどのような事業に力を入れて取り組んでいくべきだと思いますか。（複数回答可）

### 【回答】

#### ■ しごとづくり

- 「IT系、事務系」企業の誘致
- 学校（高校・大学・専門学校など）を卒業した若者の働く場所をつくること（安定して働ける場所があれば、西条市で家族を持ち子供も増えるのでは）様々な経営規模に応じた事業者の支援を行うことにより、雇用の安定、確保を目指すべきだと思う。特に大面積を占める農山村を活かした小規模事業者への支援により、安定した食の供給と雇用が確保されることが大切である。
- 産業における分析の中で、農業分野において長期的には明るさが見られる数値が示されている。経営耕地面積も田を中心としたものであるが、県内随一であり、水も豊富にあるので、産業の主要な一翼を担うものとして育てる必要があると思う。
- 高齢者雇用の推進
- 西条市に根差した新産業を創設する。
- 事業の創出としては、「植物工場」が考えられ、儲かる野菜（トマト、パプリカ、各種の花等）を生産し、ブランド化する。西条市は、地下水が豊富で平坦な耕地面積が多く、産官学の連携も良好なことから、大規模な植物工場（先端的な園芸施設）の設置が有効であり、それは農業（育種、栽培、貯蔵、流通）、工業（IoT、ICT、人工知能、機械化、ロボット化、情報化）、経営（利益を生み出す）等の広範囲の事業内容を含むので、いろいろな人がこれに関わり、農業をベースとする多種産業の雇用創出につながる。地下水は、単に栽培用だけでなく、温度が低

いので、夏期の温室の冷房に利用できる。地下水による冷房は省エネである。

- 西条市で若い人達が働きたい事業(収入になる仕事)を考える。
- 高齢化社会、働き手を増やす、労働市場に参加していない女性や、高齢者の雇用の機会を確保し、最大限に活用する方法を見つけるべき。
- 優良企業の誘致
- 全就業者の減少を食い止める対策を徹底分析する。
- 製造業、医療、福祉等の就業者の確保をどうすればよいか。
- 農業就業者の確保(外国人の確保はできないか)
- IT企業の誘致
- 西条には工場が多いが、IT関連企業は少ない。都市部ではIT関連企業に勤務する若者の比率が高く、人口構成・産業競争力の意味でも将来的な根幹産業に育てていく必要がある。
- AIやロボット等の各種産業への導入推進
- 将来の西条を支える当市の強みであるモノづくり産業または農業の活性化を徹底して行う。

#### ■ 移住・定住を含む新しい人の流れ

- 「Uターン」や「Iターン」など、移住、定住促進に関する事業
- 転入人口の増加及び労働力確保対策の一環として、移住希望者や新規学卒者に対する継続的なアプローチとこれを促進するために、産業用地の確保や安価な住宅または寮などの提供、また、水に恵まれた快適な住環境の対外的なアピールに注力すべきだと考える。



- 若者がUターン若しくは地元に残れる西条づくり
- Uターンを促進する環境整備
- 子ども達が一時期は西条を離れてしまっても、就職、結婚、子育て時代になり、この街に帰りたい！と思ったとき、家族が不安なく暮らせる環境を整えてほしいので、それに関する事業（就労、教育、医療など）に力を入れて取り組んでほしい。
- 平成 31 年 1 月宝島社（東京）発表、住みたい田舎四国で 1 位、また人口 10 万人以上で全国総合 12 位に選ばれた。このことを大きく活用し、PRを行い住みよいまちとしての存在を他地域へ呼びかけ、移住・定住の促進に向け働きかけをしてはどうか。
- 若者の転出を歯止め、もしくは外部からの若者の転入増を指向すべき。西条市はこれまで企業誘致を進め、それなりの成果は出ていると思うが、国内の製造業のトレンドからは企業誘致に頼るのは難しい。老年人口の増加とそれに伴う医療・福祉業が増加することが予測されているので、住みやすい市内中心部へ老年人口を集める施策及び周辺部へは、田舎暮らしを安価に提供できる仕組みを提供し、若者の流出減、流入増を狙う施策が有効。
- 第一次産業を活かした若者の誘致（移住を促進する）
- 移住の促進（住宅・仕事をセットで斡旋）
- 子育て世代が移住をしたくなるような施策を他市と差別化するために取り入れる。韓国や石川県羽咋市のようにオーガニック食材の給食を実施する。→有機栽培農家などの所得が安定→就農希望者の増加→耕作放棄地の減少 のように繋がっていく施策に取り組んでほしい。
- 人口増加のために、移住者支援、出産支援、産婦人科の充実。

- 人口増加は、移住+出産-自然減がプラスの時。子育て世代の移住、自然豊かなまち西条、住みたい田舎西条に定住してもらうための施策。西条市版SIB事業の拡充。短期的には移住の促進、中期的には定住の促進。健康増進、管理からの医療費削減。スポーツジムなどに通う費用を住民税の控除対象とするなど
- 市外から転入して居住用不動産を購入した場合には固定資産税を一定期間免除する等の方策

## ■ 地域資源の活用

- 現在、西条市では「水」の問題が取りざたされている。水質・水量の悪化減少している現状である。河川を整備して「水都」と言われる西条市に戻さなければならない。そこから水資源を利用した農業や産業、海産物などの育成。そして、石鎚山や瀬戸内海などの豊かな自然に対する観光にも取り組んでほしい。
- 西条市の自然(海・山・川など)を活かした、観光資源の開発・・・観光客の増加、移住

## ■ 福祉

- 高齢社会に対応し、身心共に元気で長生きできる様、介護予防等の事業
- 現在、地域によっては商店がなくなり、困っている高齢者の方が増えている。そこで移動を助ける事業とか買い物ボランティア事業とかあれば良い。
- 介護福祉
- 医療、福祉の充実(寝たきりや病気にならない為の取り組み)

- 高齢人口の増加に伴い、介護者、独居高齢者が増加している。できれば市で高齢者を見守る施設などを検討し介護・医療面を元気な高齢者から介護高齢者まで担っていく
- 地域医療体制の維持、関係機関との連携により医療体制の充実を図る。
- 健康づくりの推進と福祉の充実を図る
- 介護保険に頼らない健康寿命を延ばす対策

## ■ 子育て世代への支援

- 子育て世代への支援(保育・住宅施策等)
- 子育て支援の強化
- 子育て世代に選んでもらえる市へ
- 子育て世代の積極的なサポートとして子供の誕生一人につき、祝金を出す。
- 市内に一定期間居住している者が子供を出産した場合には、一人生まれるたびに 100 万円をプレゼントする。(転勤族は除外するなどの一定の条件をつけておく。)

## ■ 教育

- 幼年、小学校の頃から西条の良さを教育。高校も地元高校へ、また大学を作ったり若者を市外から呼び呼びよせる。
- 学校教育に関して児童数は減少するが、教育環境の整備や未来に希望のもてる配慮は必要。

- 市外、県外から生徒を集められるユニークな私学（高校、大学）の誘致または開校など。
- 小学校の多機能化（小学校を残す方法として、多世代が小学校を活用できるような施策）”
- 子どもの教育は将来の西条市にとって最も重要であり、未来の西条市を支える人材の育成には今以上に力を入れるべき。
- 先進教育のまち・・・例・英検漢検の推進
- 教育設備は現在整っている。今後は機器の更新をどうしていくか。

## ■ 女性活躍

- 女性活躍が謳われるこの時代に、年金の 3 号や扶養制度自体に疑問を感じる。サラリーマンの配偶者であることで、年金の保険料を 1 円も払わずに、年金を受け取れる制度がはたして必要なのかどうか。そんな制度は破綻しても仕方がない気が。子育て期が終わった女性は、みんなが働き、収入を得て、税金を収めるそんな時代がこないと、相互扶助制度が成り立ちません。働く女性を受け入れる側の企業においても、働けるけどセーブする女性社員等が多く、人手不足が見受けられる。国の制度を変えることはできないけれど、働く女性に優しい魅力ある西条市になって欲しい。働く女性に税金等の免除制度など。

## ■ その他

- 20 年後、30 年後を見据え、この 5 年間はいかに人口減少を最小限に抑え、同時に経済の縮小を抑え、税収を確保する具体的な計画を一刻も早く立案すべき。
- 荒れてる土地が多いようなので何かに利用できないか

- 自主防災の大切さを話し合い「地域を知る・人を知る」の観点から自治会加入促進を行う。
- 明るい未来のため各種団体と世代間交流の場を多く作ることが大切。
- 地域コミュニティのスリム化。
- 問題は先送りしない抜本改革。負のスパイラルに陥り手遅れになる前に、中長期的視野にたった取捨選択、選択と集中。
- 老若男女のコミュニケーションが持てる場を増やす。
- 健康でクリーンなまち・・・例・禁煙の推進、緑化美化、手軽な自然体験
- 女性(特に 20～39 歳)が好むまちづくり(例・コミュニケーションのできる商店、マナーのいいまち)
- 自家用車・JR・タクシーも含め市内走行バス補助金・コミュニティバスなど移動手段の見直し
- 放置人工林対策・・・従来の林業振興、支援という考え方ではなく、地下水保全、防災対策として放置人口林の解消に努める必要がある。山林の土地境界や所有者が不明な場合も多く、対策が進まない可能性もあるが、国土調査を水源域から優先して実施するなどの方策も必要である。
- 公共施設の整理・・・類似した施設の統廃合や老朽化した施設の存続について、一律に削減ではなく、5 年間に方向性を定める作業が必要である。また、利用にあたっては、受益者負担を検討し、最低限の市民生活に必要なではない施設については、民間への譲渡や売却も検討すべき。
- 耕作放棄地の有効活用
- 西条市の財政基盤が上向きでないと、すべてのことに対応できないのではないかと(企業の誘致、公共施設の整備、娯楽設備、教育設備、保育、介護、交通の利便性等)

## 西条市総合計画審議会委員ヒアリング結果③

### 【質問】

西条市の明るい未来を切り開くには、市民が「オール西条」として一丸となって取り組んでいくことが重要だと思われます。2024年までの5年間、あなたの所属される業界や団体では、どのような点に力を入れていくべきだと思いますか。あなたの考えをお聞かせください。（複数回答可）

### 【回答】

- 高齢者の人口割合が高くなり、産業、経済にも老人パワーが必要となってくる。そのためには、高齢者が健康で活力があり、幸せ感を持つ街づくりが大切。現在「老人クラブ」での活動が会員にとって魅力ある組織なのか。従来からの押し付け的な会議や行事を見直し、喜びや意義を感じずるもの、仲間との親睦、事務作業（書類作成）の簡略化などを図って、会員の増強と共にリーダーの育成も必要とされる。（書類作成は本当に難しい。80 歳以上のリーダーには無理。市職員と同じように求められるととても苦痛である）
- 市と連携し高齢者（要介護・要支援）への対応を考えていきたい。また、市の持続的なまちづくりに向け、子育て支援策を行っていかねばならないと考えている。活動するにあたり、地域自治組織とも協力し、連携していかねばならないと考える。
- 各地域の方と子どもとのコミュニケーションの場を持つこと。
- 公立・私立など、いろいろな形の保育施設において、お互い連携をとり、子どもも保護者も安心して通える施設であること。
- 市民が生涯現役で健康で豊かな社会生活を営むため、スポーツにおける健康促進とその啓発活動に積極的に取り組みたい。
- まちづくり団体などが主催するルーティンイベントに、様々な世代が参加できるよう、定着を図り、周知を行っていくべきと考える。

- これまで西条市の自然環境について調査研究、普及啓発を行ってきた。その中で、放置人口林の問題が西条市にとって重要な課題となっていることが明らかになってきた。今後は、放置人工林を天然林に誘導するための具体的な方策について更に研究を進め、行政への提言、市民が参加できる水源の森を保全する施策について実施していきたいと考えている。

今後、行政課題が多様化する中で、解決には市民との協働が不可欠になりつつある。しかし、協働の概念を行政、市民の双方が共有できておらず、意見を聞くだけの形骸化した委員会やパブリックコメント、過度な行政依存の体質が続いている。引き続き関連する分野への提言を続けつつ、協働を目指して行政、市民双方へ意識改革を促したいと考えている。

- 引き続き中小企業の経営の改善や成長を図るとともに、新規創業や円滑な事業承継を支援し、地域経済の活力の維持・向上に取り組む。
- 建設業界等の人材確保、消防団員の加入促進
- コミュニティスクールの導入など、地域ぐるみの学校教育や社会教育の推進
- 学校統廃合についての検討
- 教育機器の進歩は早いため、更新をどのようにしていくのか
- 校舎等の老朽化が顕著であるが、どのように対応していくのか。※安全面での課題
- 西条市は、県内でも愛護班という名称を残し、活動している数少ない市町の 1 つである。1 つ 1 つの活動に長い歴史があり、それを次の世代に確実につないでいくことが大切であると考えている。

2024 年までの 5 年間はもちろん、その後もずっと愛護班という名称を残していくために、時には他団体とも協力しながら、その時代のニーズにあった活動をしていくことが大切であると考えている。

- 元気な子どもたち、外で遊ぶ子ども達を多くつくりたい。運動・食などを通して西条で最後まで暮らせるよう支援をしていく。
- 各地域や市全体（文化協会、公民館等における市民芸術文化の継承や維持）での取り組みや後継者づくりにより地域文化の継承・形成を図る
- 市内出身の先人を顕彰、文化財保護に関して市民への周知を行い、文化財の保護と活用を図る。
- 博物館の展示内容と充実を図るため、文化財保護審議会に協力を求め、内容、分類等の研究や保存、全般について見直しをしてはどうか。
- 市民一人一人の生涯学習の提供に努めるとともに、社会教育施設の利用促進を図り、社会教育の充実を目指す（地域づくり、人づくり）
- 人権、同和教育の推進
- 農業、林業、水産業、商業棟の振興
- 弊社のワーカーは 85～90 年頃の入社年代に偏りがあり、5 年後あたりに大量の定年退職を迎えると予測されている。定年延長を実施したとしても限界があり、次世代のワーカーの採用が課題。若者の製造業離れ、他県への流出が進行する状況下で困難な課題だが、前向きに取り組んでいく。
- 労働環境の整備
- 就労環境の促進
- 移住促進
- 所属団体も高齢化が進み、このままでは近い将来、漁村を維持できない深刻な事態が予想される。今一番の課題は後継者対策であり、組織経営基盤を整備し、漁業の担い手を守り育てることにある。
- 移住促進に関して、仕事の提供、働き方向上で子育て世代をサポート



- 起業家の発掘・サポート

明るい未来のためには若者の新しい発想による商品・サービスが必要。それにより住みやすい市になっていくとともに、若者がチャレンジしやすい市として移住者の取り込みを図る。

- 自身の所属する業界に限れば、我々のできることは限られてくるが、金融機関として可能な限り各情報の提供や、各種提案を行うとともに、また行政からの提案、リクエストに関しては可能な限りスピード感をもって対応していきたい。
- 金融機関として地元企業に対しソリューション営業をしっかりと行うことが企業の存続につながり、西条市のためにもなると考える。
- 対象の事業(未来を切り開く事業)を行うための人材育成
- 高齢化が進んでいるが、高齢者の中には経験豊富で、また優れた技術を持っている人も多くいるので、また若者の中にもやる気のある人はいるので、これらの人々を発掘し、有効利用する。現在、退職は 65 歳からであるが、70 歳までは給料を安くしてでも雇用すべきと考える。高齢者は、自分が社会のために何らかの役に立てば生きる喜びを感じるので、高齢者一人一人に居場所と出番があるような地域社会が形成できれば良いと思っている。
- 地域の間人関係(人と人とのつながり)を良くし、これをベース(資本)とする地域社会の発展が重要と思われる。
- 会員が高齢化で今のままだと減少する見込みであり現存は難しい。
- 2市2町合併して 15 年、もっと 4 支部の実情を語り合いながら地域に融和の風を起こすイベント等を話し合うことが大切ではないか。
- 山間部から沖積平野に渡り農地の荒廃箇所に、小・中・高の学生等を広く受け入れて体験学習をしてはどうか。

- 地域の課題に主体性を持てる市民を増やすような講演会、ワークショップなどを開催する。そのような考えを持つ市民が増えることで、地力(西条市の)が強くなりオール西条となるのではないかと考える。自分の住む地域を自分たち(市民)の力で何とかしようとする市民が少なすぎると感じる。
- 地域の農地を守るべく、果樹栽培を中心とした農業を広めていく。その為に、人手の確保、研修生を受け入れ、移住者だけが住める区域(定年者であっても)をつくり、生活しやすい環境をつくる。
- 地域コミュニティの再構築(一律ではなく、各々の地域が未来の姿を共有し、選択できる環境、制度の整備)
- 市民活動支援センターの多機能化(地縁・志縁組織のマッチング、協働事業)
- 多様な性別、役職、年齢が集えるしかけづくり
- 男性の育休、介護休暇取得の促進、推奨
- 【SDGs 目標 10:人や国の不平等をなくそう】

世代間不平等の是正。日本は世界の平均的な割合に比べ、子育て支援にお金をあまり使わず、高齢者世代向けにお金をたくさん使っている。これでは、社会保障制度を維持していく根本的な解決にはならない、とりあえず現状の問題点を解決するためだけの支出である。

未来への投資、誰もが若い人の支援にお金を使うべきことはわかっている。未来をつくる、若者がつくるまち、選挙投票率の向上。若者のまちづくりへの当事者意識の醸成(無関心から関心へ)、現状変革への意識改革を促す。

- 【SDGs目標 8:働きがいも経済成長も】

これからの日本の将来を担っていく若者たちが生きやすい世の中をつくっていくために、少し我慢して自分たちの生活より若者の生活を優先する。自己中心的な発想、目の前の課題だけにとらわれない未来志向の視点をもった人財、経営者、管理者の育成に力を入れる。

● 【SDGs 目標 5:ジェンダー平等を実現しよう】

日本社会におけるジェンダー平等の問題。性による役割の分担の不公平さ、賃金格差、長時間労働の労働環境の問題、子どもを受け入れられない社会風土など、これら社会的課題解決及び多子社会創造に向けて企業に求められる役割の変化を認識してもらう。

● 西条宅建協会の会員として

- ・賃貸マンション等への外国人の積極的な受け入れを推進
- ・空き家の有効活用及び移住者へのあっせん等

西条商工会議所青年部として、

- ・地域経済の発展の寄与

社会保険労務士として

- ・仕事と家庭の両立支援等（育児・介護休業法の周知徹底や、両立支援制度を利用できる職場環境の整備の支援等）